

平塚市都市マスタープラン（第2次）一部改訂（素案）

（西部地域のまちづくり方針一部改訂）

2025年（令和7年）6月

平塚市まちづくり政策部まちづくり政策課

目 次

1. <u>平塚市都市マスタープラン（第2次）西部地域のまちづくり方針一部改訂の趣旨</u>	1
(1) 神奈川大学湘南ひらつかキャンパスの土地利用の経過と跡地利活用の方向性	
(2) 地域別方針一部改訂の背景	
(3) 神奈川大学湘南ひらつかキャンパスの跡地利活用の方向性	
(4) 地域別方針一部改訂のねらい	
2. <u>西部地域のまちづくり方針一部改訂の位置づけ</u>	2
(1) 平塚市都市マスタープラン（第2次）について	
(2) 本市のまちづくりに関係する諸計画との整合	
3. <u>神奈川大学湘南ひらつかキャンパス跡地の方向性</u>	3
4. <u>西部地域のまちづくり方針一部改訂</u>	4
(1) 西部地域の分野別の方針	
(2) 西部地域の資源をいかした魅力づくりの方針	
5. <u>平塚市都市マスタープラン（第2次）の運用</u>	6
(1) 西部地域のまちづくり方針に追加・修正する項目	
(2) 西部地域のまちづくり方針の「神奈川大学」の記載について	
付録. <u>西部地域のまちづくり方針一部改訂 新旧対照表</u>	8

1. 平塚市都市マスタープラン（第2次）西部地域のまちづくり方針一部改訂の趣旨

(1) 神奈川大学湘南ひらつかキャンパスの土地利用の経過

神奈川大学は、1988年（昭和63年）策定の新平塚市総合計画の平塚ばらの丘ハイテクパーク構想をもとに、1989年（平成元年）に神奈川大学平塚キャンパス（後に神奈川大学湘南ひらつかキャンパス）が開設されました。2008年（平成20年）に策定した、平塚市都市マスタープラン（第2次）では、西部地域のまちづくり方針に大学として位置づけられ、30年以上に渡り大学として利用されましたが、2022年（令和4年）に売却方針が決定し、2023年（令和5年）に理学部が横浜キャンパスへ移転により、全ての学部が移転されたことを受け、売却に向けた検討が進みました。

年次	内容
1988年（昭和63年）	新平塚市総合計画（HOT プラン21・湘南ひらつか） 「平塚ばらの丘ハイテクパーク構想」の位置づけ
1989年（平成元年）	神奈川大学 平塚キャンパス開設
2008年（平成20年）	平塚市都市マスタープラン（第2次）策定 「西部地域のまちづくり方針」に大学として位置づけ
2023年（令和5年）	神奈川大学理学部が横浜キャンパスへ移転

(2) 地域別方針一部改訂の背景

大規模施設の移転は、平塚市都市マスタープラン（第2次）別冊においては、機動的に対応することが、持続的なまちづくりを進めるうえで重要であることが記載されています。また、都市マスタープラン（第2次）本冊の都市マスタープランの推進においても地域別の方針の柔軟な見直しが行われていることから、神奈川大学湘南ひらつかキャンパスの移転に伴っては、西部地域のまちづくりの方針の関連する部分を一部改訂する必要があります。

(3) 神奈川大学湘南ひらつかキャンパス跡地利活用の方向性

神奈川大学は、土屋地区の地域住民のほか、学識経験者、神奈川大学などを委員とした神奈川大学湘南ひらつかキャンパス跡地利活用協議会（以下、協議会）を設立し、この協議会では、少子・高齢化などの対策、地域活性化、持続可能なまちづくりに資する利活用のあり方など、土屋地区のまちづくりについて合計4回の会議により検討を行い、2023年（令和5年）に「安心・安全な生活環境」、「雇用の創出」、「賑わいの創出」を利活用の方向性として、報告書をまとめました。

(4) 地域別方針一部改訂のねらい

神奈川大学湘南ひらつかキャンパスの移転が決定し、新たな土地利用計画の具体化が進む時期をまちづくりの機会としてとらえ、地域住民を含む協議会の方向性を踏まえ、神奈川大学湘南ひらつかキャンパス跡地に関連する部分の地域別の方針を一部改訂し、西部地域にふさわしい土地利用を誘導するものです。

2. 西部地域のまちづくり方針一部改訂の位置づけ

(1) 平塚市都市マスタープラン（第2次）について

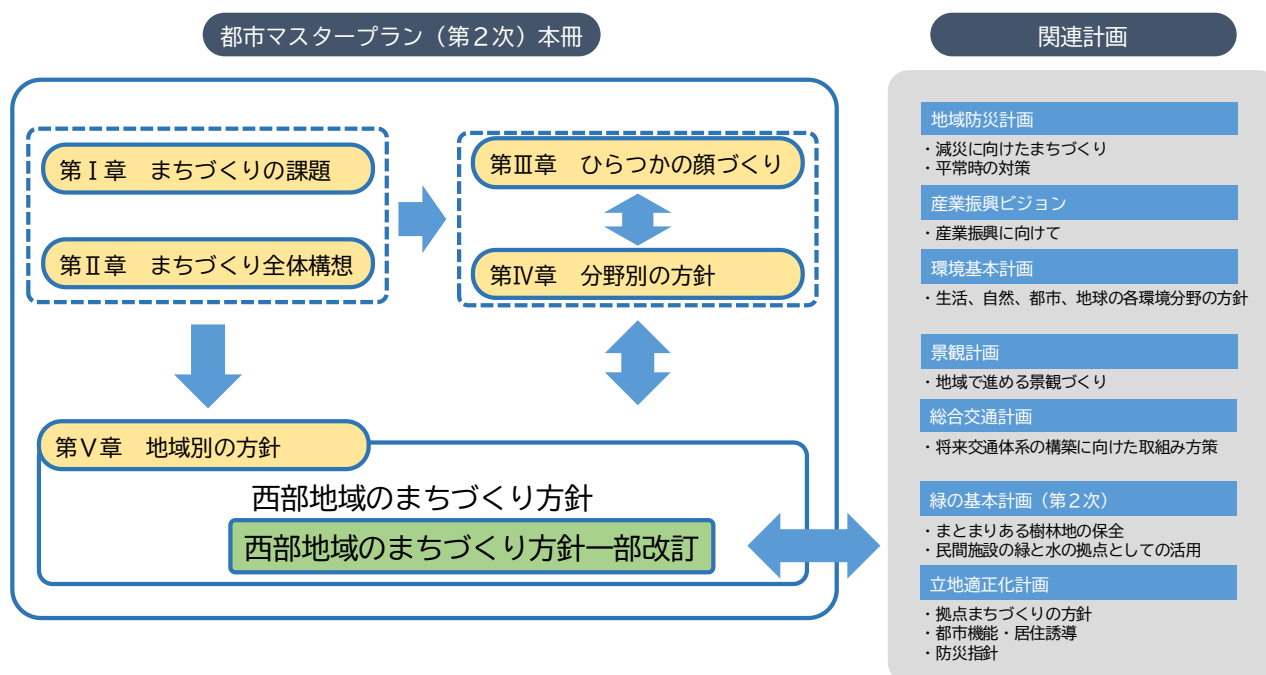
西部地域のまちづくり方針は第Ⅰ章のまちづくりの課題と第Ⅱ章のまちづくりの全体構想を踏まえ、また、第Ⅲの平塚の顔づくりや第Ⅳ章の分野別の方針と整合するものです。

改訂する西部地域のまちづくり方針は、この位置づけを維持します。

(2) 本市のまちづくりに関係する諸計画との整合

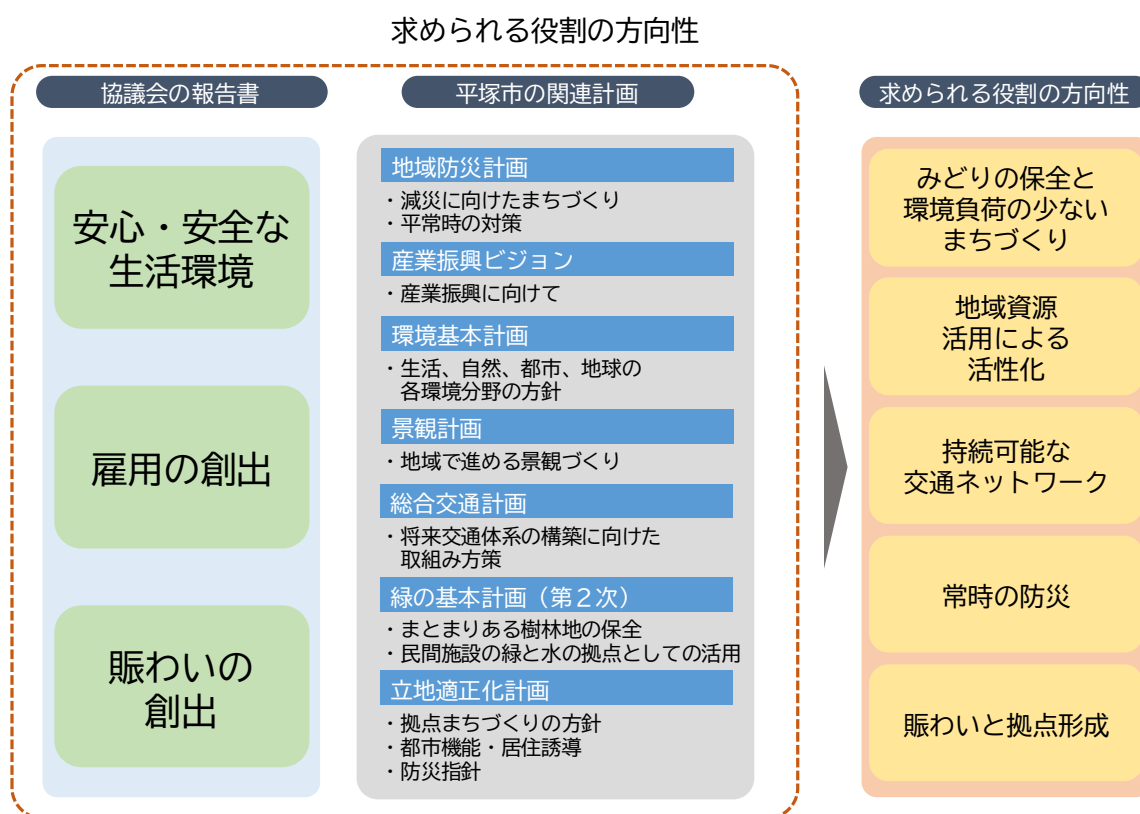
本市のまちづくりに関係する諸計画である、下記の関連計画については、平塚市都市マスタープラン（第2次）に整合を図りながら策定しています。西部地域のまちづくり方針の改訂にあたっては、関連計画との整合を図るものとします。

西部地域のまちづくり方針一部改訂の位置づけ



3. 神奈川大学湘南ひらつかキャンパス跡地の方向性

協議会での意見と平塚市の関連計画に位置づけられている内容を踏まえ、神奈川大学湘南ひらつかキャンパス跡地において求められる役割の方向性については、「みどりの保全と環境負荷の少ないまちづくり」「地域資源活用による活性化」「持続可能な交通ネットワーク」「常時の防災」「賑わいと拠点形成」として整理します。



4. 西部地域のまちづくり方針一部改訂

3. 神奈川大学湘南ひらつかキャンパス跡地の方向性を踏まえ、西部地域のまちづくり方針を改訂します。平塚市都市マスタープラン（第2次）の西部地域のまちづくり方針の（4）西部地域の分野別の方針、（5）西部地域の資源をいかした魅力づくりの方針及び西部地域のまちづくり方針図を次の通り追加・修正します。なお、（1）西部地域のあらまし、（2）西部地域の主な課題、（3）西部地域のまちづくりの目標と将来像をこれまでと変わらず、踏まえることとします。

（平塚市都市マスタープラン（第2次）本冊 P102～P106）

（1）西部地域の分野別の方針

①道路と交通

●道路一般

修正

- ・（仮称）秦野中井インター・平塚アクセス道路は、大学キャンパス跡地の利活用による新たな土地利用にも資するため、計画の具体化を進めます。

●バス交通

追加

- ・主要なバス停などは、日常必要な諸機能集積と一体的に交通結節点の強化に努めます。

②住まい環境

●公共公益施設

追加

- ・大学キャンパス跡地は、防災機能を備えた地域コミュニティに寄与する施設（公益に資する施設など）の立地を検討します。

③景観やみどりと水辺

●公園や広場

追加

- ・自然環境をいかし、地域の賑わいを生むような空間の創出を検討します。

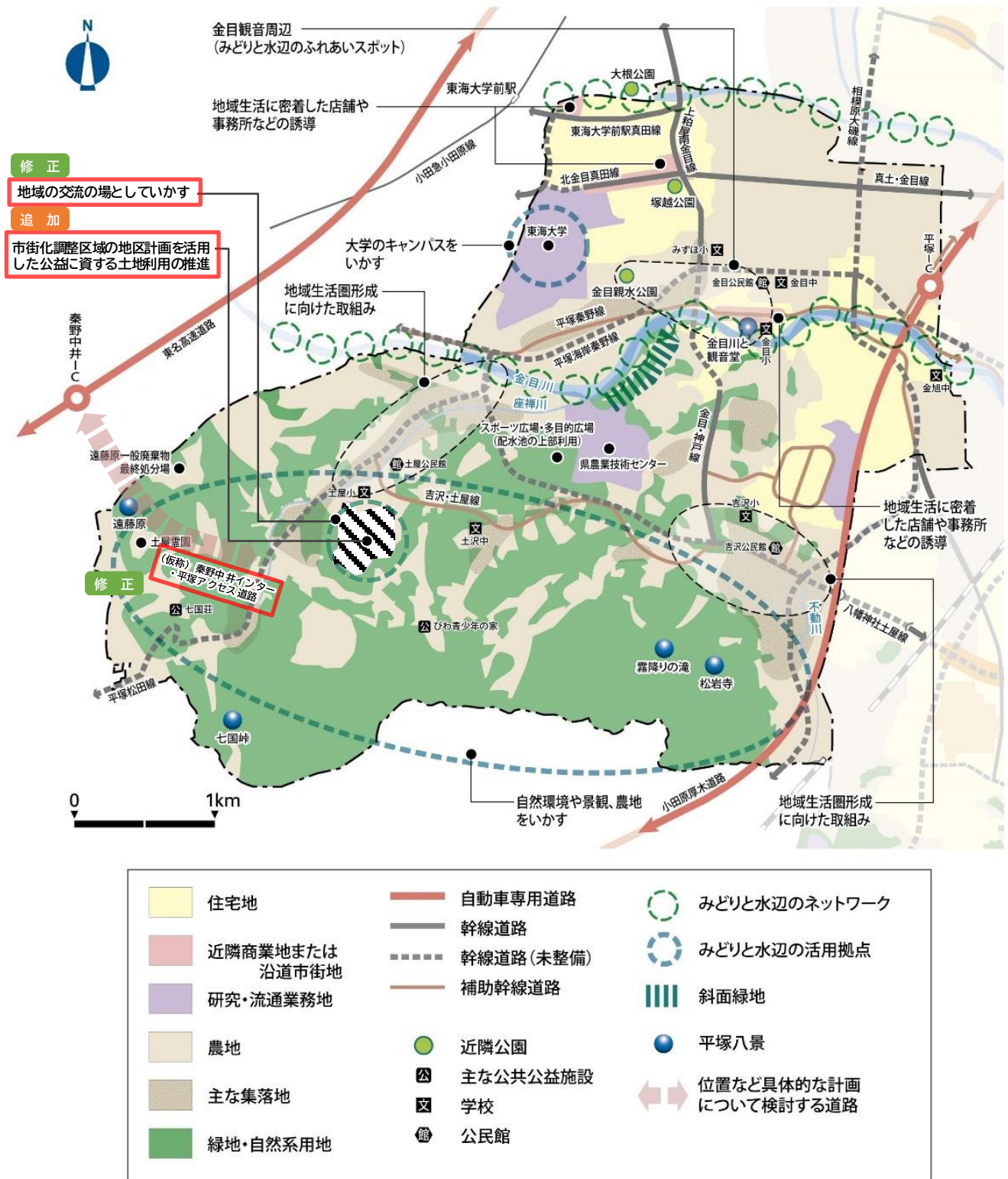
（2）西部地域の資源をいかした魅力づくりの方針

追加

●大規模土地利用の転換を活用したまちづくり

- ・大学キャンパス跡地の利活用にあたっては、樹林地などの保全に努めるとともに、周辺環境と調和した土地利用を誘導し、これまでの地域住民との交流をいかし、持続可能な地域運営を進めます。

西部地域のまちづくり方針図



5. 平塚市都市マスタープラン（第2次）の運用

西部地域のまちづくり方針一部改訂の内容については、平塚市都市マスタープラン（第2次）の第Ⅴ章地域別の方針、Ⅴ.6 西部地域のまちづくり方針の一部として運用します。

第Ⅴ章以外の神奈川大学等の表記については、4. 西部地域のまちづくり方針一部改訂の表記に置き換えるものとして取り扱います。

(1) 西部地域のまちづくり方針に追加・修正する項目

4. 西部地域のまちづくり方針一部改訂に記載した内容について、都市マスタープラン（第2次）本冊に以下の通り追加したものと取り扱います。

ページ	該当箇所	該当文章	対応
104	●道路一般	・（仮称）秦野中井インター・平塚アクセス道路は、大学キャンパス跡地の利活用による新たな土地利用にも資するため、計画の具体化を進めます。	修正
104	●バス交通	・主要なバス停などは、日常必要な諸機能集積と一体的に交通結節点の強化に努めます。	追加
104	●公共公益施設	・大学キャンパス跡地は、防災機能を備えた地域コミュニティに寄与する施設（公益に資する施設など）の立地を検討します。	追加
105	●公園や広場	・自然環境をいかし、地域の賑わいを生むような空間の創出を検討します。	追加
105	（5）西部地域の資源をいかした魅力づくりの方針	●大規模土地利用の転換を活用したまちづくり ・大学キャンパス跡地の利活用にあたっては、樹林地などの保全に努めるとともに、周辺環境と調和した土地利用を誘導し、これまでの地域住民との交流をいかし、持続可能な地域運営を進めます。	追加

(2) 西部地域のまちづくり方針の「神奈川大学」の記載について

都市マスタープラン（第2次）本冊に記載されている内容の一部の取り扱いを以下の通り整理します。

ページ	該当箇所	該当文章	置き換え
102	●地域の主な資源 4行目	<u>東海大学や神奈川大学、 県農業技術センターな ど</u>	<u>東海大学、県農業技術セ ンターなど</u>
103	●地域の資源を いかすための課題 3行目	市内に <u>2つある大学</u> の 存在は	市内の <u>大学</u> の存在は
105	●代表的な景観 12、13行目	<u>東海大学と神奈川大学 は、ケヤキやイチョウ並 木を始め、</u>	<u>東海大学はケヤキ並木 を始め、</u>
105	●大学のキャンパスをいかす 1行目	<u>2つの大学の立地をい かし</u>	<u>大学の立地をいかし</u>

新

V.6 西部地域のまちづくり方針

(1) 西部地域のあらまし

●位置・面積

- ・西部地域は小田原厚木道路の西側に位置し、地域界の多くを秦野市・中井町・大磯町との市町境としています。かつては土沢村と金目村に属し、土沢村は昭和31年9月に、金目村は昭和32年10月に平塚市に編入されました。
- ・地域の面積は1,919.9haで全市の約28%を占めます。うち北金目地区は375.2ha、南金目地区は387.3ha、土沢地区は1,157.4haです。
- ・北金目地区はみずほ小学校区、南金目地区は金目小学校区、土沢地区は吉沢小と土屋小学校区が含まれます。

●人口・土地の利用

- ・人口は全市の約8%を占めます。北金目地区と土屋地区は減少、南金目地区はやや減少傾向にあります。(平成17年国勢調査)
- ・市街化区域^{*}は、地域の約10%を占め、北金目、南金目及び土沢地区の一部に住宅地がまとまってあり、その他は広大な農地と丘陵が占めています。
- ・金目川の水辺から南北に広がる田園のなかに、ゆとりある住宅地が形成されています。
- ・北金目地区は小田急小田原線の東海大学前駅に近く、日常の最寄り駅としての利用が多く、市域を越えた地域生活圏が形成されています。
- ・五領ヶ台地区(めぐみが丘)や土地区画整理事業^{*}が進む真田・北金目地区、真田地区などでは、地区計画^{*}により良好な居住環境の形成が進められています。



住宅地(めぐみが丘)



●地域の主な資源

- ・金目川や里山を中心に「金目川と観音堂」「七国峠・遠藤原」「霧降りの滝・松岩寺」などの平塚八景があり、本市の代表的な景勝地となっています。
- ・東海大学、県農業技術センターなどの学術機関や研究所在立地しています。
- ・土沢地区を中心とする里山には、本市で最も貴重な自然が残っています。



霧降りの滝

旧

V.6 西部地域のまちづくり方針

(1) 西部地域のあらまし

●位置・面積

- ・西部地域は小田原厚木道路の西側に位置し、地域界の多くを秦野市・中井町・大磯町との市町境としています。かつては土沢村と金目村に属し、土沢村は昭和31年9月に、金目村は昭和32年10月に平塚市に編入されました。
- ・地域の面積は1,919.9haで全市の約28%を占めます。うち北金目地区は375.2ha、南金目地区は387.3ha、土沢地区は1,157.4haです。
- ・北金目地区はみずほ小学校区、南金目地区は金目小学校区、土沢地区は吉沢小と土屋小学校区が含まれます。

●人口・土地の利用

- ・人口は全市の約8%を占めます。北金目地区と土屋地区は減少、南金目地区はやや減少傾向にあります。(平成17年国勢調査)
- ・市街化区域^{*}は、地域の約10%を占め、北金目、南金目及び土沢地区の一部に住宅地がまとまってあり、その他は広大な農地と丘陵が占めています。
- ・金目川の水辺から南北に広がる田園のなかに、ゆとりある住宅地が形成されています。
- ・北金目地区は小田急小田原線の東海大学前駅に近く、日常の最寄り駅としての利用が多く、市域を越えた地域生活圏が形成されています。
- ・五領ヶ台地区(めぐみが丘)や土地区画整理事業^{*}が進む真田・北金目地区、真田地区などでは、地区計画^{*}により良好な居住環境の形成が進められています。



住宅地(めぐみが丘)



●地域の主な資源

- ・金目川や里山を中心に「金目川と観音堂」「七国峠・遠藤原」「霧降りの滝・松岩寺」などの平塚八景があり、本市の代表的な景勝地となっています。
- ・東海大学や神奈川大学、県農業技術センターなどの学術機関や研究所在立地しています。
- ・土沢地区を中心とする里山には、本市で最も貴重な自然が残っています。



霧降りの滝

(2) 西部地域の主な課題

●道路と交通の課題

・平塚秦野線や吉沢・土屋線の一部区間では慢性的な渋滞が見られるため、その対応が課題です。また、歩行者や自転車利用者の空間不足が問題となっているところがあります。道路整備と共に交通安全施設*の整備や改善が課題です。

●住まい環境の課題

・人口が減少し、地域社会としての維持が難しくなっている集落があります。日常生活に必要な生活利便施設の充足などが課題です。

●地域の資源をいかすための課題

・平塚八景を中心に地域の資源をつなぎ、観光やレクリエーションの場としていくことが課題です。

・市内の大学の存在は貴重で、県農業技術センターも含め、これらがもつ専門性をいかした地域の活性化が望まれます。

・農地や里山の荒廃の進む傾向が見られ、保全しながらもいかすための工夫が課題です。



東海大学のケヤキ並木

(3) 西部地域のまちづくりの目標と将来像

まちづくりの目標

- 恵まれた自然や歴史資産をいかし、地域を広くアピール
- 安心安全の道路と交通の確保による、便利な移動環境の確保
- 住民と大学などとの交流による地域の活性化

将来像

恵まれた自然環境をいかして地域を活性化し、
交流の輪を次世代につなぐまち

先人が大切に守り培ってきた自然や歴史・文化が脈々と息づく西部地域は、住民と大学や都市住民との交流のなかで新たな活気を創出し、地域の貴重な資産を守り、いかし、次世代につなぐまちをめざします。

(2) 西部地域の主な課題

●道路と交通の課題

・平塚秦野線や吉沢・土屋線の一部区間では慢性的な渋滞が見られるため、その対応が課題です。また、歩行者や自転車利用者の空間不足が問題となっているところがあります。道路整備と共に交通安全施設*の整備や改善が課題です。

●住まい環境の課題

・人口が減少し、地域社会としての維持が難しくなっている集落があります。日常生活に必要な生活利便施設の充足などが課題です。

●地域の資源をいかすための課題

・平塚八景を中心に地域の資源をつなぎ、観光やレクリエーションの場としていくことが課題です。

・市内に2つある大学の存在は貴重で、県農業技術センターも含め、これらがもつ専門性をいかした地域の活性化が望まれます。

・農地や里山の荒廃の進む傾向が見られ、保全しながらもいかすための工夫が課題です。



東海大学のケヤキ並木

神奈川大学のイチヨウ並木

(3) 西部地域のまちづくりの目標と将来像

まちづくりの目標

- 恵まれた自然や歴史資産をいかし、地域を広くアピール
- 安心安全の道路と交通の確保による、便利な移動環境の確保
- 住民と大学などとの交流による地域の活性化

将来像

恵まれた自然環境をいかして地域を活性化し、
交流の輪を次世代につなぐまち

先人が大切に守り培ってきた自然や歴史・文化が脈々と息づく西部地域は、住民と大学や都市住民との交流のなかで新たな活気を創出し、地域の貴重な資産を守り、いかし、次世代につなぐまちをめざします。

(4) 西部地域の分野別の方針

①道路と交通

●道路一般

- ・八幡神社土屋線など、未整備となっている都市計画道路の段階的な整備を進めます。

- ・安全で円滑な生活交通の確保のため、吉沢・土屋線、金目・神戸線などは、歩道の設置や道路の新設、橋りょうの整備や改善など、効率的で効果的な道路整備を進めます。



吾妻橋の交通渋滞

- ・真田地区及び真田・北金目地区の土地区画整理事業*は、基盤整備と合わせて、その周辺の幹線道路や生活道路などの整備を段階的に進めます。

- ・(仮称)秦野中井インター・平塚アクセス道路は、大学キャンパス跡地の利活用による新たな土地利用にも資するため、計画の具体化を進めます。

●バス交通

- ・バス交通の円滑な走行や利便性の向上のため、バス停の環境整備などを進めます。また、東西方向のバス網の形成に努めます。

- ・主要なバス停などは、日常必要な諸機能集積と一体的に交通結節点の強化に努めます。

●歩行者空間、自転車利用環境

- ・歩行者や自転車利用者のため、安全に通行できる空間の確保や交通安全施設*などの環境整備を進めます。

- ・自転車利用環境の向上のため、自転車走行空間の創出や自転車ネットワークの形成に努めます。また、バス停周辺において駐輪場の設置を検討します。

②住まい環境

●住宅地

- ・土地区画整理事業が進む北金目地区の住居系市街地や金目川の南北に広がる南金目地区の住居系市街地、めぐみが丘は、戸建てを中心とした低層住宅地として、みどり豊かな居住環境を形成します。

- ・道路などが必要なところは、居住環境や防災性を高めるため、生活道路や下水道施設などの公共施設整備を進めます。

●近隣商業地や沿道市街地

- ・土地区画整理事業が進む真田・北金目地区や真田地区の中心部、上粕屋南金目線や東海大学前駅真田線、北金目真田線などの沿道の一部、平塚秦野線の金目小学校付近には、地域生活に密着した店舗や事務所などの立地を誘導します。



平塚秦野線の沿道市街地（金目小学校付近）

●集落地・農地

- ・土沢地区の集落地においては、日常必要な生活利便施設の立地の誘導を検討します。

- ・農地は、食料供給や多面的機能*を有するため、これを維持及び保全し、さらに有効利用するため農業振興策を進めると共に、生産基盤の向上に努めます。また、農業への理解を深めるため、市民による体験の場づくりについて検討します。

●公共公益施設

- ・びわ青少年の家や地区公民館などの公共公益施設は、地域の様々な活動を支える拠点として、誰もがつかいやすいように施設の柔軟な運営と管理に努めます。

- ・大学キャンパス跡地は、防災機能を備えた地域コミュニティに寄与する施設(公益に資する施設など)の立地を検討します。

(4) 西部地域の分野別の方針

①道路と交通

●道路一般

- ・八幡神社土屋線など、未整備となっている都市計画道路の段階的な整備を進めます。

- ・安全で円滑な生活交通の確保のため、吉沢・土屋線、金目・神戸線などは、歩道の設置や道路の新設、橋りょうの整備や改善など、効率的で効果的な道路整備を進めます。



吾妻橋の交通渋滞

- ・真田地区及び真田・北金目地区の土地区画整理事業*は、基盤整備と合わせて、その周辺の幹線道路や生活道路などの整備を段階的に進めます。

- ・秦野中井インターチェンジアクセス道路は、道路の位置など具体的な計画について検討します。

●バス交通

- ・バス交通の円滑な走行や利便性の向上のため、バス停の環境整備などを進めます。また、東西方向のバス網の形成に努めます。

●歩行者空間、自転車利用環境

- ・歩行者や自転車利用者のため、安全に通行できる空間の確保や交通安全施設*などの環境整備を進めます。

- ・自転車利用環境の向上のため、自転車走行空間の創出や自転車ネットワークの形成に努めます。また、バス停周辺において駐輪場の設置を検討します。

②住まい環境

●住宅地

- ・土地区画整理事業が進む北金目地区の住居系市街地や金目川の南北に広がる南金目地区の住居系市街地、めぐみが丘は、戸建てを中心とした低層住宅地として、みどり豊かな居住環境を形成します。

- ・道路などが必要なところは、居住環境や防災性を高めるため、生活道路や下水道施設などの公共施設整備を進めます。

●近隣商業地や沿道市街地

- ・土地区画整理事業が進む真田・北金目地区や真田地区の中心部、上粕屋南金目線や東海大学前駅真田線、北金目真田線などの沿道の一部、平塚秦野線の金目小学校付近には、地域生活に密着した店舗や事務所などの立地を誘導します。



平塚秦野線の沿道市街地（金目小学校付近）

●集落地・農地

- ・土沢地区の集落地においては、日常必要な生活利便施設の立地の誘導を検討します。

- ・農地は、食料供給や多面的機能*を有するため、これを維持及び保全し、さらに有効利用するため農業振興策を進めると共に、生産基盤の向上に努めます。また、農業への理解を深めるため、市民による体験の場づくりについて検討します。

●公共公益施設

- ・びわ青少年の家や地区公民館などの公共公益施設は、地域の様々な活動を支える拠点として、誰もがつかいやすいように施設の柔軟な運営と管理に努めます。

③景観やみどりと水辺

●代表的な景観

・富士山や大山・丹沢の山並みへの眺望を確保し、季節の移ろいと開放感が感じられる、まとまりのある田園や里山景観を維持及び保全します。

・魅力ある散策ルートの充実など、人と自然がつくり出すみどりと里山景観の魅力や大切さを広めます。

・金目観音堂を始め、地域の歴史を伝える社寺などを地域のシンボルとして保全します。



金目観音堂

・東海大学は、ケヤキ並木を始め、季節感のある景観を楽しむことのできる文教施設として、その空間をいかせるよう検討します。

●みどりと水辺空間、ネットワーク

・田園や里山は、農業生産の場であると共に、様々な生物のすみかにもなっています。身近なみどりと季節感あふれる風景であり、その多面的機能[※]を果たすよう保全に努めます。

・金目川沿いの斜面緑地は、貴重なみどりとして保全に努めます。また、金目観音周辺は歴史や文化資源をいかし、みどりと水辺のふれあいスポットの形成に努めます。

・金目川や座禅川などの川辺は親水空間をいかし、みどりと水辺のネットワークづくりに努めます。

●公園や広場

・身近な公園や広場は、地域ニーズに応じ、また地域住民の参加により、誰もがつかいやすく親しみのある空間づくりを進めます。

・現在、スポーツ広場・多目的広場として利用されている県平塚配水池の上部については、交流やレクリエーションの場としての拠点性をさらに向上させるため、多目的利用の推進に努めます。

・自然環境をいかし、地域の賑わいを生むような空間の創出を検討します。

(5) 西部地域の資源をいかした魅力づくりの方針

●地域資源をつなぐ

・西部地域の平塚八景を始め、びわ青少年の家、スポーツ広場・多目的広場（県平塚配水池の上部利用）、学術機関や研究所などを拠点として、これらをつなぐ散策ルートを充実します。各拠点においては、地域の自然や景観を楽しむ場、環境学習できる場、地元住民との交流の場などの創出について検討します。

●大学のキャンパスをいかす

・大学の立地をいかし、キャンパスと地域が相互に空間を提供しあい、学生と地域住民など様々な人の交流を進め、相互に活力を高め合うしくみづくりを検討します。

●自然環境や景観、農地をいかす

・本市の貴重な資源である西部丘陵地の自然環境や景観、農地などは、様々な角度から地域の活性化につながるよう検討します。

●大規模土地利用の転換を活用したまちづくり

・大学キャンパス跡地の利活用にあたっては、樹林地などの保全に努めるとともに、周辺環境と調和した土地利用を誘導し、これまでの地域住民との交流をいかし、持続可能な地域運営を進めます。



里山の農地

③景観やみどりと水辺

●代表的な景観

・富士山や大山・丹沢の山並みへの眺望を確保し、季節の移ろいと開放感が感じられる、まとまりのある田園や里山景観を維持及び保全します。

・魅力ある散策ルートの充実など、人と自然がつくり出すみどりと里山景観の魅力や大切さを広めます。

・金目観音堂を始め、地域の歴史を伝える社寺などを地域のシンボルとして保全します。



金目観音堂

・東海大学と神奈川大学は、ケヤキやイチヨウ並木を始め、季節感のある景観を楽しむことのできる文教施設として、その空間をいかせるよう検討します。

●みどりと水辺空間、ネットワーク

・田園や里山は、農業生産の場であると共に、様々な生物のすみかにもなっています。身近なみどりと季節感あふれる風景であり、その多面的機能[※]を果たすよう保全に努めます。

・金目川沿いの斜面緑地は、貴重なみどりとして保全に努めます。また、金目観音周辺は歴史や文化資源をいかし、みどりと水辺のふれあいスポットの形成に努めます。

・金目川や座禅川などの川辺は親水空間をいかし、みどりと水辺のネットワークづくりに努めます。

●公園や広場

・身近な公園や広場は、地域ニーズに応じ、また地域住民の参加により、誰もがつかいやすく親しみのある空間づくりを進めます。

・現在、スポーツ広場・多目的広場として利用されている県平塚配水池の上部については、交流やレクリエーションの場としての拠点性をさらに向上させるため、多目的利用の推進に努めます。

(5) 西部地域の資源をいかした魅力づくりの方針

●地域資源をつなぐ

・西部地域の平塚八景を始め、びわ青少年の家、スポーツ広場・多目的広場（県平塚配水池の上部利用）、学術機関や研究所などを拠点として、これらをつなぐ散策ルートを充実します。各拠点においては、地域の自然や景観を楽しむ場、環境学習できる場、地元住民との交流の場などの創出について検討します。

●大学のキャンパスをいかす

・2つの大学の立地をいかし、キャンパスと地域が相互に空間を提供しあい、学生と地域住民など様々な人の交流を進め、相互に活力を高め合うしくみづくりを検討します。

●自然環境や景観、農地をいかす

・本市の貴重な資源である西部丘陵地の自然環境や景観、農地などは、様々な角度から地域の活性化につながるよう検討します。



里山の農地

